



# 2024年度日本語教育学会**春季大会**

2024(令和6)年5月25・26日／オンライン開催

開会式は、事前のオンデマンド配信での開会挨拶のみとなります。

## 目 次

開催概要／目次	2
大会日程	3
開催のご挨拶	4
一般公開プログラム	6
発表一覧：パネルセッション	7
発表一覧：口頭発表	8
発表一覧：ポスター発表	12
同時開催イベント	16

### ◆今大会の開催方法について◆

2024 年度日本語教育学会春季大会は、全面的にオンライン開催となります。

- 学会発表については、以下の 3 つの方式の組み合わせにて行います。
  - 事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2024 年 5 月 17 日（金）～ 6 月 9 日（日）  
（パネルセッション：各ビデオ 40 分，口頭発表：各ビデオ 20 分，ポスター発表：ポスター掲示）
  - 事前の指定フォームによる質問受付：2024 年 5 月 17 日（金）～ 5 月 24 日（金）正午
  - 大会当日の Zoom による同時双方向型の質疑応答：2024 年 5 月 25 日（土）・26 日（日）  
（パネルセッション：各 40 分，口頭発表：各 20 分，ポスター発表：各 40 分）  
※なお、当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。
- その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「大会・イベント」のページ（[https://www.nkg.or.jp/event/taikai/20231010\\_2489897.html](https://www.nkg.or.jp/event/taikai/20231010_2489897.html)）にて、今後公開される告知等をご確認ください。
- オンライン開催における有料プログラムへのご参加は、事前参加登録のみとなります（当日受付は行いません）。
- 無料プログラムへのご参加につきましては、事前申込は不要です。参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください（4 月中旬に詳細を公開予定）。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費（有料プログラム）：  
【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】  
会員 3,500 円  
会員（有効期限付き学生証を提出済みの方）2,000 円  
会員でない方 5,000 円  
【当日受付】オンライン開催では行いません。
- ◆事前登録期間：2024 年 4 月 16 日（火）～ 5 月 15 日（水）
- ◆問合せ先：  
E-mail: taikai-office@nkg.or.jp（下記を除く大会に関する問合せ先）  
nkg.taikai@gmail.com（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）  
TEL: 03-3262-4291



# 開催のご挨拶

周知のように、今年は「日本語教育制度化元年」となります。日本語教育推進法が施行されて5年で必要なさまざまな制度が整備されたわけです。日本語教育の施策は、大枠では、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」(外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議決定)とそれに基づく「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」の下で進められています。同ロードマップでは、「安全・安心な社会」、「多様性に富んだ活力ある社会」、「個人の尊厳と人権を尊重した社会」という3つのビジョンが掲げられています。

本大会の一般公開プログラムでは、複言語・複文化主義と日本語教育というテーマを設定しました。概略として言うと、多文化共生は上の2つ目のビジョンに関わり、複言語・複文化主義は3つ目に関わるかと思えます。3つ目のビジョンは、「外国人を含め、全ての人がお互いに個人の尊厳と人権を尊重し、差別や偏見なく暮らすことができる社会」と説明されています。このビジョンの下では、多文化共生が実現された社会で、自身もつ複数の文化と複数の言語をさらに育み、それぞれの人が自分らしく自身の人生を生きる姿が浮かび上がってくるようです。

過去数年間は「日本語教育の参照枠」が日本語教育のあり方を考える際の「主役」のようになっていたように思います。わたしたちは今一度立ち止まって、多文化共生や複言語・複文化主義との関係で日本語教育に何ができるかを問わなければならないでしょう。2日間の大会を通して活発な議論と対話が行われることを期待しています。

公益社団法人日本語教育学会会長 西口光一

.....大会テーマ設定に関して.....

公益社団法人日本語教育学会では、次の3つの社会的研究課題を設定し、2017年度より各委員会が連携し、取り組んでまいりました。

- 課題1： 日本語教育学の「学問的専門分野」としての体系的枠組みの構築
- 課題2： 日本語人材・複言語人材育成のための日本語教師養成・研修の理念と枠組みの再構築
- 課題3： 多様なキャリア形成のための日本語教育内容の体系的再編成

公益社団法人日本語教育学理念体系より ([https://www.nkg.or.jp/.assets/rinen\\_2015-2019.pdf](https://www.nkg.or.jp/.assets/rinen_2015-2019.pdf))

# 開催のご挨拶

---

課題1は、次の通りです。

日本語教育関係者が日々研究・実践している多様な課題や領域の全体を「学的領域」として改めて捉え直し、その包括的領域内の個々の課題や領域の相関関係を体系的に整序して、「新たな学問的専門分野 (discipline) としての日本語教育学」の「学としての概念的輪郭」を描出・記述する。

「日本語教育学」と言えば、誰もがおよそその研究・実践の領域的輪郭を描くことができ、多様な諸活動を支える中核的な基礎概念・方法論的立場・評価基準などを緩やかに共有することができ、「人をつなぎ、社会をつくる」ための通用性のある「固有の学的専門性」を主張できることを目指す。

課題2は、次の通りです。

日本語教育の研究者・教育者・実践者の育成方法、教育内容、教育体制の多様化と深化を見据えた上で、日本国内外の人材育成の在り方を抜本的に再検討する。

高等教育段階における「学術的・専門的な日本語運用能力」、地域社会における「日常生活的な日本語運用能力」、初等中等教育 段階における「児童・生徒の自我の成長を 支え教科学習に参加できる日本語運用能力など、多様な「日本語運用能力」の育成・強化に関する現状・問題点・課題・必要性 (ニーズ) を摘出・確認し、多様な日本語教育を担う柔軟で即応力のある日本語教師に求められる知的・技術的・人間的な素養について再検討する。

日本にとって地理的に近いアジア地域や 世界各地の日本人の移住・集住地域などを軸にしつつ広く諸外国・諸地域における日本語教育の在り方について、また、それぞれの地域における日本語人材や複言語人材の養成・研修の在り方について地政学的な観点から再検討し、相互交流・相互理解そして共生社会形成の素地作りについて、議論を喚起していく。

課題3は、次の通りです。

研究者や高度職業人として必要なコミュニケーション能力育成、「生活者としての外国人」の職場や地域社会におけるコミュニケーション能力育成、また年少者を含む生活者のキャリア形成やキャリアアップのための包括的教育・学習支援の在り方を研究・開発する。

同時に、そのような日本語人材・複言語人材の多様な組織や日本社会への受け入れによる社会的インパクトについて、また少子高齢化する日本社会の活性化への将来的影響等についても研究し、併せて多文化・多言語を背景とする人々をつなぎ、多元的な共生社会を創っていくための日本語教育施策の在り方と意義についても議論を喚起する。

課題1～3は繰り返し順に取りあげられ、1つの課題は「春季大会発表募集テーマ」「春季大会一般公開プログラム」「学会誌特集テーマ」が連動することにより、具体となります。今回の発表募集テーマは課題1に基づいています。

\* 無料でご参加いただけます。

## 複言語・複文化主義と日本語教育 —教師養成及び教育実践現場の課題と展望—

5月25日(土) 10:00～12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。多様な背景を持つ人々が共生する現代において、複言語・複文化主義と日本語教育の関わりを考え、今後の教育実践や研究の可能性を示すことは、学会として重要といえます。

そこで、本プログラムではさまざまな立場から日本語教育及び日本語教師養成に携わるの方々をお迎えし、複言語・複文化主義とは何かを考え、複言語・複文化主義に基づく日本語教育現場での実践例や課題を語っていただくこととしました。複言語・複文化主義に基づく日本語教育の実践のためにはどのような素養を持つ日本語教師が養成されるべきか、そのような日本語教師をどう養成するか、そして、多様な背景を持つ日本語教師同士での協働をいかに実現するかについてもディスカッションしていただきます。

参加者の皆さんにとってこれらのディスカッションは、複言語・複文化主義と日本語教育、今後の日本語教師養成・研修のたどるべき道について考える貴重な機会となるでしょう。多くの方々のご参加をお待ちしています。

### 登壇者（五十音順）：

ヴォロビヨワ・ガリーナ氏

(元ビシケク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学学科 准教授)

亀田美保氏 (大阪YMCA日本語教育センター センター長)

名嶋義直氏 (琉球大学グローバル教育支援機構 教授)

李在鎬氏 (早稲田大学国際学術院 教授)

### 司会：

ランブクピティヤ・ディヌーシャ氏

(久留米大学・調査研究推進委員会委員)

助成：一般社団法人尚友倶楽部

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

## パネルセッション—質疑応答—

[13:50 ~ 15:20 (各 40 分)]

### 第 1 会場

13:50 ~ 14:30

①★

中堅日本語教師研修の実践と課題  
—日本語教育学会 JCN 研修を事例にして—

小林ミナ (早稲田大学)  
小河原義朗 (東北大学)  
中島祥子 (鹿児島大学)  
義永美央子 (大阪大学)

14:40 ~ 15:20

②★

省察的実践を軸にした複合連携型日本語教育  
実習の構築と学び—大学の日本語教員養成課程の  
場合—

池田広子 (目白大学)  
金庭久美子 (同)  
功力綾子 (元 JCLI 日本語学校)

## 口頭発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

午前の部 [9:30 ~ 12:20 (各 20 分)]

### 第 1 会場

司会 :	
	【①~③】 田中祐輔 (筑波大学) 【④~⑥】 ボイクマン総子 (東京大学)
9:30 ~ 9:50	<p>① ビデオ録画を活用したスピーチ活動の実践—自己評価・ピア評価を経たパフォーマンスの変容—</p> <p>篠崎佳恵 (東京国際大学) 大住あかり (パデュエ大学大学院生) 酒井晴香 (東京国際大学)</p>
10:00 ~ 10:20	<p>② 中国語母語話者日本語学習者の誤用からみる「XのY」と「XY」の選択条件</p> <p>孫之依 (関西学院大学大学院生)</p>
10:30 ~ 10:50	<p>③ ChatGPT を用いた日本語会話練習システム及び会話ログ蓄積システムの構築と日本語使用機会としての可能性</p> <p>高橋敦 (デジタルハリウッド大学)</p>
11:00 ~ 11:20	<p>④ 「他者との関わり」から考える日本語教師の専門性—4段階のモデルの提案—</p> <p>末松大貴 (名古屋学院大学)</p>
11:30 ~ 11:50	<p>⑤ スピーチスタイルシフトは談話機能を果たすか</p> <p>岡崎渉 (鳴門教育大学)</p>
12:00 ~ 12:20	<p>⑥ 日本語多義動詞の未知拡張義の意味推測における知識源使用とその正確さ</p> <p>崔暁文 (お茶の水女子大学大学院生)</p>

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

## 第2会場

## 第3会場

司会：  
【⑦～⑨】岩崎典子（南山大学）  
【⑩～⑫】今西利之（京都産業大学）

司会：  
【⑬～⑮】石澤徹（東京外国語大学）

9:30～9:50

⑦  
韓国語を母語とする学習者にとって難しい「は」「が」の問題とは—韓国語と日本語の違いをもとに—  
中西久実子（京都外国語大学）

この時間帯、第3会場は使用しません

10:00～10:20

⑧  
社会文化理論と認知言語学の融和を目指して—終助詞「ね・よ・よね」の実践例—  
増田恭子（ジョージア工科大学）

この時間帯、第3会場は使用しません

10:30～10:50

⑨  
ピア・レスポンスを取り入れた遠隔協働活動における学習者間の相互行為の特徴—スキャフォールディングの分析を通して—  
蔡苗苗（大阪大学大学院生）

この時間帯、第3会場は使用しません

11:00～11:20

⑩  
日本語学習動機づけの要因としての職場  
鍋島有希（桜美林大学）

⑬  
EJUの問題文における化学と物理の漢字・語彙—特定分野特化型の教材開発へ向けて—  
杉山暦（札幌大学）  
久保田育美（明石工業高等専門学校）

11:30～11:50

⑪  
日本語学習者の「やさしい日本語」の理解に関する調査および分析  
轟木靖子（香川大学）  
高橋志野（愛媛大学）  
山下直子（香川大学）

⑭★  
日本語教員養成講座を修了した後に必要な学びとは何か—修了生を対象としたアンケート結果に基づく分析—  
櫛佳世（フリーランス）

12:00～12:20

⑫  
キャリア教育に活かす日本語学習者のカタカナ語学習に関する一考察—日本語母語話者と日本語学習者の語彙に関する意識調査の分析を通して—  
佐古恵里香（流通科学大学）  
山内信幸（同志社大学）

⑮★  
ブラジル日本語教師の研修と学びの場—日本語教育関係機関へのインタビューを通して—  
MUKAI Felipe Naotto（筑波大学大学院生）  
飯田朋子（ユライ・ドブリラ大学プーラ）

## 口頭発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

午後の部 [13:40 ~ 15:00 (各 20 分)]

## 第 1 会場

13:40 ~ 14:00

この時間帯、第 1 会場は使用しません

14:10 ~ 14:30

この時間帯、第 1 会場は使用しません

14:40 ~ 15:00

この時間帯、第 1 会場は使用しません

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

## 第2会場

司会：  
【16～18】船橋瑞貴（早稲田大学）

13:40～14:00

⑩  
主題と主語—日本語の言語的特徴を踏まえた日本語学習者に対する説明を求めて—

庵功雄（一橋大学）

14:10～14:30

⑪  
YNU 書き言葉コーパスから見る補助動詞テミルの学習者の使用傾向に関する一考察

武中清香（一橋大学大学院生）

14:40～15:00

⑫  
韓国語を母語とする日本語学習者の聴解における困難点

任ジェヒ（立教大学）

## 第3会場

司会：  
【19～21】嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）

⑬

ありふれた日本語教育言説に向き合うために—焦点会話法に基づく問いのデザイン—

嶋津百代（関西大学）

⑭★

課題遂行型シラバスを用いた就労のための日本語授業の課題—指導用手引き作成に向けて—

渡部裕子（東洋大学），大石寧子（日本国際協力センター），浅見恵子（同），三浦優子（元日本国際協力センター）

⑮

日本語教師を対象とした質的研究論文の分類—「研究方法」と「調査者の情報の有無」に注目して—

細井駿吾（東京国際大学），中西梓（広島大学大学院生），末松大貴（名古屋学院大学）

## ポスター発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

### 第 1 会場

午前の部 [9:20 ~ 12:30 (各 40 分)]

9:20 ~ 10:00

①★

**なぜ、大学生は日本語教師養成課程を受講するのか—養成課程受講開始時の質問紙調査における定量的分析からの考察—**

清水裕子 (立命館大学), 北出慶子 (同), 澤邊裕子 (東北大学), 嶋津百代 (関西大学), 杉本香 (大阪大谷大学)

10:10 ~ 10:50

②★

**感情面からみる教師の成長の一事例—日本語学校における新人日本語教師のベレジヴァーニエの一つの出来事としての初回授業—**

加藤伸彦 (京都外国語大学)

11:00 ~ 11:40

③★

**現職日本語教師の研修後の学びの継続—研修事業 A「修了生の会」の活動記録から—**

堀井恵子 (元武蔵野大学), 内田さつき (コミュニケーション学院), 北内直子 (フリーランス), 國井久美子 (同), 滑川恭平 (ウイルテック)

11:50 ~ 12:30

④★

**日本語教育実習における実習生の発話の変容—学習者に対するフィードバックに着目して—**

徐煉 (国立国語研究所), 張曦冉 (同), 柳田直美 (早稲田大学)

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

## 第2会場

9:20 ~ 10:00

⑤  
**コロナ禍によるオンライン授業を体験した日本語教師の意識の探究**  
 —勤続年数の違いに着目して—  
 秋田久美子 (目白大学大学院修了生)

10:10 ~ 10:50

⑥★  
**日本語教師初任に求められる資質・能力における「態度」の形成プロセスを探る—就労者に対する日本語教師初任者研修の実践を手がかりに—**  
 常次亨介 (海外産業人材育成協会)

11:00 ~ 11:40

⑦  
**中国語母語話者大学院留学生による課題文章作成時の過程と意識—言語生成AI使用の有無での異なりを中心に—**  
 大島弥生 (立命館大学)  
 石毛順子 (豊橋技術科学大学)

11:50 ~ 12:30

⑧  
**日本語能力と心理検査から探る外国につながる子どもの能力と支援方法—DLA・KABC-II・PFスタディを用いた事例研究—**  
 橋本ゆかり (横浜国立大学)  
 鈴木朋子 (同)

## 第3会場

⑨★  
**学部教員養成課程における日本語教育科目の意義—教員の成長の基盤構築の視点から—**  
 浜田麻里 (京都教育大学)

⑩★  
**東日本大震災の被災地で行う「市民性×日本語教育ワークショップ」のデザインとその成果—日本語教育を学ぶ六大学の参加学生と養成課程担当教員の振り返りから—**  
 澤邊裕子 (東北大学)  
 早矢仕智子 (宮城学院女子大学)

⑪  
**「教科書基礎語」の抽出—小学校教科書語彙リストをもとにして—**  
 山本裕子 (愛知淑徳大学)  
 川村よし子 (元東京国際大学)  
 鷲見幸美 (名古屋大学)

⑫  
**説明を促す表現の使い分け—「という」と「って」を中心に—**  
 加藤恵梨 (愛知教育大学)

## ポスター発表—質疑応答—

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

### 第1会場

午後の部〔13:40～15:10（各40分）〕

13:40～14:20

⑬

接触場面の雑談における「和やかさ」の維持—  
意味交渉の回避に着目して—

酒井晴香（東京国際大学），久保亜希（防衛大学校），  
狩野裕子（東京国際大学），篠崎佳恵（同）

14:30～15:10

⑭

ナラティブの反応部と後続話題から見る協働構  
築—日本語母語場面・中国語母語場面・日中接触場  
面の比較—

夏雨佳（東京外国語大学大学院生）

★印は、今大会のテーマ「日本語教師養成・研修の最前線とその課題」に関連した発表です。

## 第2会場

13:40 ~ 14:20

⑮  
生活場面の敬語を理解するための教材開発—敬語の形・目的・配慮の理解を目指して—

高木美嘉 (城西国際大学)  
坂本恵 (東京外国語大学)  
徳間晴美 (明治学院大学)

14:30 ~ 15:10

⑯  
中国語を母語とする日本語学習者におけるフィラーの縦横断的分析—習熟度別観点から—

安田真由美 (長崎外国語大学)  
中原郷子 (同)

## 第3会場

⑰  
外国人家族散在地域における保育者アンケートの分析—保育者が考える外国人親子とのことばの問題について—

武田加奈子 (白百合女子大学)  
井上裕子 (同)  
栃木亜寿香 (同)

⑱★  
外国人散在地域における日本語学習支援・指導者向けITスキル基礎講座実施の成果と課題

向井留実子 (愛媛大学), 高橋志野 (同), 築地伸美 (同), 深田絵里 (同), 田代桜子 (同)

## わかばさんいらっしやい

[5月25日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加しているのかな?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などを説明します。大会当日は動画の内容について簡単に質疑応答を行なった後に「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士で交流できる場を用意します。新しい出会いがあると大会はもっと楽しくなり、大会終了後もネットワークは広がっていくでしょう。

参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんわかばさんのご参加をお待ちしています。

## 日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J) 学会・研究会紹介ブース

[5月25日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 連携協力委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J) は、アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、JSL 漢字学習研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会(事務局)の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの学会・研究会が、各分野の最新情報や、各研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談をお受けすることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野の興味のある方のご来場をお待ちしています。Zoomで直接ご質問やご相談をお受けいたします。加盟団体の詳しい情報については各団体のサイトをご覧ください。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

## 賛助団体会員出展ブース

[活動紹介・書籍紹介・教材紹介等] \*無料でご参加いただけます。

[5月25日(土) 15:30～17:20]

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO団体等、52団体が入会しています。(2024年3月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。当日の双方向型オンラインセッションのほか、オンデマンドによるビデオ配信、資料配信も行っておりますので、ぜひご覧ください。

\* 出展団体につきましては、19ページをご覧ください。

## 日本語教育学会の現状とこれから（説明会）

[5月26日(日) 12:40～13:20(40分間)]

主催：公益社団法人日本語教育学会

本学会は「人をつなぎ、社会をつくる」という使命のもと、日本語教育の学術研究・実践・情報交流の促進に取り組んでいる公益社団法人です。日本語教育学は「日本語教育学の俯瞰図」(2023年3月公開)にあるように、多様な領域でダイナミックに拡張し、また深化してきました。一方、日本語教育を取り巻く社会情勢は、2019年6月に日本語教育の推進に関する法律、2024年4月には日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律が施行されるなど、大きく変動しています。

しかし、本学会の資源には限りがあるため、注力して取り組む活動を学会理念にもとづいて再考する必要性が生じています。この大きな変化に対応するため、2025年度に執行予定であった第三次中期計画の策定を1年遅らせて検討に時間をかけることになりました。

本説明会では、こうした学会の現状と今後の方向性について会長・副会長がお話します。みなさまからのご質問やコメントも歓迎いたします。

## 交流の部屋

[5月26日(日) 12:30～13:20 および 15:20～16:10]

主催：公益社団法人日本語教育学会 大会委員会

2024年度春季大会では、「交流の部屋」というスペース・時間を設けることにいたしました。

二日目の昼休みと午後の口頭発表が終了したあとに50分ほど交流のスペース・時間を設けます。出入りは自由です。

Zoomの部屋を用意しますので、会員同士の交流の場としてご利用ください。このZoomの部屋は、いくつかのブレイクアウトルームに分かれて利用することができます。

学会参加者の皆様は、どなたでも利用することができます。発表者と参加者、あるいは参加者同士が、さらに意見交換をしたり情報交換をしたりして交流を深める場としてご利用ください。

\*本プログラムは、Zoomミーティングのブレイクアウトルームを使用予定です。

5 月 25 日 (土) (団体名及びキーワード)

第 1 部 [15:30 ~ 16:00]

第 1 会場

一般社団法人  
Global 8  
OPIc テスト / スリランカとつなぐ  
効果的学習支援

第 2 会場

公益社団法人  
国際日本語普及協会  
書籍紹介 / 教材紹介

第 3 会場

株式会社  
ひつじ書房  
書籍紹介 / 教材紹介

第 2 部 [16:10 ~ 16:40]

第 1 会場

株式会社  
アスク出版  
教材紹介 /  
つなぐにほんご

第 2 会場

一般財団法人  
海外産業人材育成協会  
AOTS 日本語教育事業  
の活動紹介 /  
日本語教師募集

第 3 会場

株式会社  
ジャパンタイムズ出版  
書籍紹介

第 3 部 [16:50 ~ 17:20]

第 1 会場

一般財団法人  
日本国際協力センター  
就労日本語 /  
教師研修

第 2 会場

株式会社  
アルク  
会話授業のための  
書籍紹介

◆動画・資料配信 (団体名及びキーワード):

株式会社 スリーエーネットワーク (書籍紹介 / 教材紹介)

◆資料配信のみ (団体名及びキーワード):

株式会社 くろしお出版 (書籍割引 / 教材紹介)

株式会社 研究社 (書籍紹介 / 教材紹介)

独立行政法人 国際交流基金

株式会社 国書刊行会 (書籍紹介 / 教材紹介)

株式会社 三修社 (新刊案内 / Can-do)

有限会社 Jリサーチ出版 (書籍紹介 / アプリ紹介)

株式会社 大修館書店 (書籍紹介)

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 (ビジネス日本語能力テスト / BJT)

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所 (大学院 / 日本語言語科学コース)

\* 事前申込は不要です。参加方法は 4 月中旬に学会ウェブサイトにて公開予定です。